

# 地域活動における学生の自己評価と課題

—アートプロジェクトを事例として—

宮 嶋 達 也

星槎道都大学研究紀要

美術学部

創刊号

2020 年

## 地域活動における学生の自己評価と課題

—アートプロジェクトを事例として—

宮 嶋 達 也

### 要旨

昨今、高等教育機関での地域活動は、学生が主体となり、どのように活動に関わるかが重要である。積極的に関心を示す学生を指導していくことで、地方にある大学は、地域に根差し、地域とともに生きていかなければ、その存在価値を見出すことはできなくなっている。学生による地域活動を展開することで、大学としての教育機関の基本的な使命を忘れることなく地域に貢献できる活動を果たすことが重要であると考えられる。

アートやデザインとしての学生の地域活動と考えたときに、どのような形態で地域貢献できるのか、そしてどのような形で学生主体の活動を推進できるのかを含めながら考えると、地域交流を通してのデザインやアートの実践教育としてワークショップの取り組みを具体的な活動として行うこととした。

### 1. はじめに

地域活動において、昨今大学の果たすべき役割が重要視されている。

少子化・人口減少の時代を迎え、地域における大学の存在意義が変わってきている。政策的な後押しもあり、多くの大学が地域貢献への開放に取り組むことになった。

2005年の中央教育審議会の答申で新時代における高等教育の全体像の高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化の中で大学の機能別分化は高等教育機関相互の連携協力による各機能の補完や充実強化も、必ずしも設置形態の枠組みにはとらわれずに促進されるものと考えられる。

特に大学は、全体として①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）等の各種の機能を併有するが、各大学ごとの選択により、保有する機能や比重の置き方は異なる。その比重の置き方が各機関の個性・特色の表れとなり、各大学は緩やかに機能別に分化していくものと考えられると社会貢献機能の一部に地域貢献という言葉が列挙されているにすぎなかったが、答申後の状況として私立大学は、建学の精神に基づき自らの強み・特色を活かした教育・研究を実践するとあり、加えて、私学助成により「地域連携」「産学・他大学連携」「グローバル化」等の改革に全学的・組織的に取り組む大学を重点支援し、更なる個性・特色を伸ばす施策を実施とした。

現在は教育・研究の次に並ぶ重要課題として地域貢献が位置づけられている。

本学では2017年度から全学的に地域志向のカリキュラムとして地域共生プログラムを卒業要件の単位として組み込んだ。我が国の高等教育の将来像（答申）はじめにの中で他者の文化（歴史・宗教・風俗習慣等を広く含む。）を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力を持った個人を創造することが、今後の教育には強く求められている。また、高等教育においては、先見性・創造性・独創性に富み卓越した人材を輩出することも大きな責務である。本学生の地域活動により、彼らのもつ専門領域の創造性や表現力をデザイン活動に活かし、グループワークでの共同での制作作業に積極的に関与することで課題対応能力・問題解決能力など、通常の授業では学べないことを学習し、2019年度「北広島市地域活動支援事業」活動を通して、デザイン教育としてのアートプロジェクト型のワークショップでの地域活動の有効性を考察する。

### 2. 地域活動（ワークショップ活動）の目的と内容

学生の地域活動にはさまざまな貢献が考えられるがアートやデザインとしての地域学生活動と考えたときにどのような形態で地域貢献できるのか、そしてどのような形で学生主体の活動ができるのかも含めながら考えると、地域交流を通してのデザイン・アートの実践教育としてワークショップの取り組みを具体的な活動として行うこととなった。

幼児達と共に一つの造形を彩り表現することをテーマ

とし、学生が大きな型で作上げた様々な形のダンボールの立体造形を、幼児達がペーパーフラワーで色彩豊かに飾り付けてもらい、一つのアートを生み出します。また、みんなで協力して一つの作品に取り組むことで、子ども達の創造力・創作意欲・表現力の向上の手助けをし、学生と地域の共生を深めていきます。本ワークショップでは学ぶことだけでなく、説明したこと（課題）を理解して対処する力や多人数での作業を協力しながらこなしていく力なども重要な課題である。

また、活動を通じてあまり接することのない幼児とコミュニケーションを取り合い、彼らが想像するアートを考えながら共同作業していくことで幼児側の表現を感じ取りながら感性も養っていくのである。

## 2-1 期待される効果として

アートに触れることにより感動や新しい発見など、心を動かすことの喜びを感じることができます。学生たちが楽しいことをやっている姿を見せることにより、その姿を見て幼児も一緒に真似たり、学んだり、遊んだりし始めます。自分の目で見て、触れて、感じ、自分を表現することにより自由な発想や創造力・自発性など、心を育む効果が期待できる。

幼児達が、アートワークショップを通じて感動や新しい発見をし、表現することの楽しさや完成することの喜びを感じることで、アートの世界観がより広がり、子ども達の創造力やデザイン能力を育むことができる。

「ワークショップは、ある体験をするものと体験を設定する者との関係が生じるが、それは「教える」「教えられる」という固定した関係ではなく、「体験する」と「体験させることを体験する」という生きた関係である。」と述べている。ここでは、「体験する」幼児と「体験させることを体験する」学生とがこのような生きた関係の中で活動していくことで専門性を生かした地域交流を通して、その作品が人に喜びを与えその活動が社会に受け入れられることが更なる専門性へと意識が高まることを目的とする。

## 3. 地域活動（ワークショップ）事前準備として

### 財源の確保

本地域のワークショップ活動に辿り、学生のみによる活動にとどまる場合、活動にかかる財源をどのように確保するのかなどの問題が生じる可能性がある。まずは財源確保のために北広島市の「学生地域活動支援事業補助金」への申請を行った。

この事業は地域活動事業等を行う学生団体に対して補助金を交付することにより、学生を中心とした自主的な

活動を支援し、学生と市との協働及び人的資源の活用による地域の活性化を図ることを目的とするものであり、定義の中には、地域活動事業等、市におけるまちづくり及び地域の活性化を図る目的で実施する事業をいうとある。

補助対象団体は大学等（大学・大学院・短期大学）にある学生団体のうち、以下の団体とし、①教員等が指導するゼミナール ②教員等が指導するサークル活動団体等がある。

補助対象事業は ①環境活動に関する事業 ②地域福祉に関する事業 ③教育・文化に関する事業 ④環境・産業に関する事業 ⑤その他まちづくりに関する事業であり、当活動内容では③教育・文化に関する事業が我々の活動に当てはまるものであった。

## 4. 補助金申請の重要性

行政機関は通常規則を設けており、申請書はその内容を審査される前に、まず「規定を順守しているかどうか」を基準に選別されます。このため申請書を準備する際は全ての事項のチェックリストを作成した。また、指導教員は学生リーダーへの補助金申請プロセスを指導し、その重要性について教育する必要があった。

申請書の準備には多くの時間と労力が費やされるため、却下されたら容易には受け入れがたいものである。補助金の申請が却下されることは珍しくありません。また、申請書を準備した本人のみならず、準備を補助し、活動を支持した教員など周囲の学生たちも落胆させることになり、今後の地活動に支障をきたすことも考えられる。活動する当事者の学生たちだけで、どのように財源の獲得や申請書の正しい書き方などを学生主体で考えていくのかは、大きな課題のひとつである。

## 5. 地域活動（ワークショップ）についての考察

### 5-1 活動準備

地域活動は準備を含め8月～11月の約3か月の期間で行われた。参加学生は全45名で6つのグループに編成された。今回はその中で2年生の3つのグループを調査対象とした。まず各グループでリーダーを決め、それぞれのグループが話し合いのもとで、どのような作品を制作するのかを話し合った。こちらからはワークショップの制作を一緒にする対象者の年齢と場所、活動時期などを告知した。制作する造形の大きさは最大で1.5m×1.5m×1.0m以内とし、制作数は自由とした。

5-2 地域活動（ワークショップ）の様子

—グループA制作物：アナコンダ（巨大ヘビ）の親子—



制作活動中の様子



園児たちとふれあう学生



アナコンダ（巨大ヘビ）の親子

—グループB制作物：恐竜（ステゴサウルス）—



ワークショップの説明①



ワークショップの説明②



制作活動中の様子

—グループC制作物：ひつじの親子—



ワークショップの説明



制作活動中の様子



園児たちとふれあう学生



ひつじの親子

### 5-3 地域活動のふりかえり

ふりかえりの前段階として活動準備の際に制作活動の内容及び意見や反省点などを毎回時間の管理を含めて記載させていたものを一部参考させながらワークショップ後 KPT メソッドを使用し、ふりかえりを行った。KPT というのはふりかえりによって仕事やプロジェクトの改善をするフレームワークである。Keep：良かったので、継続すること。Problem：悪かったので、改善すること。Try：次に挑戦することである。「Reflection Workshop」の中で Alistair Cockburn 氏が提唱した「The Keep/Try Reflection」がベースとなっており、日本独自の形で進化することで、非常に使いやすいフレームワークとなっている。ふりかえりは下記の3要素に分けて行う。

- ・ What we should keep. (続けるべきこと)
- ・ Where we are having ongoing problems. (抱えている問題)
- ・ What we want to try in the next time period. (次にトライしたいこと)

このメソッドを活用するにあたり、気をつけなければならない点として、学生たちにふりかえりは反省ではないという認識を持たせることも重要である。ふりかえりでは悪かった点だけでなく、今後も続けたい良かった点も共有する。良かった点などを共有しても、プラスにもならないという考えもあるかもしれない。しかし「過去の出来事と行動すべてをふりかえる」ことで、客観的にグループ全体の活動が見えてくるはずである。

ふりかえりのルールの中で個人的な攻撃を行わずに問題 vs グループといった構図を考え、個人で発生した問題もグループ全体の問題として解決に向かうこととした。個人的な問題としてしまうと非難を恐れて問題点が見えたとしても書くことを拒む可能性が出てきてしまいグループ全体の活動が骨抜き化してしまい、実質的な意味合いを失い、形だけが残って先行してしまう可能性もあり、そういう意味ではふりかえりがうまくグループ間で機能すれば信頼性やグループ間の士気も高まっていく可能性は多いにあると考えた。

メンバーが出す問題点を個々人が真剣に受け止め、グループ全体で解決できるような場を作り上げて行くことが重要であると言える。

この3つの観点から自分やグループで考えを出し、プロジェクトごとにふりかえりを進めていった。

表1 ふりかえりのフレームワーク (KPT)

Keep these やってみてよかったこと 継続したいこと	Try these 次回新たにやってみたいこと
Problems 課題だったこと 改善したいこと	

5-4 活動のふりかえりによる結果 (KEEP)

表2 Aグループ

<p>Keep</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班員と協力、分担して製作できたこと。</li> <li>・ アイデアをみんなで出し合い、個性豊かでどンドンより良い作品になりました</li> <li>・ 作業工程では、早め早めの姿勢で取り組んだため、予定より早く完成できたこと。</li> <li>・ 余った時間で当初の予定にはなかった、本体以外にミニの蛇を2体作成することができました。</li> <li>・ 幼稚園では園児にやさしく接して教えてあげることができました。</li> <li>・ 子供たちが積極的に参加してくれてスムーズに運べた。</li> <li>・ 作業がスムーズだった。</li> <li>・ 園児たちに（主に男の子）からは大人気だった。</li> <li>・ 腹部あたりに付けた鈴も、みんな鳴らして遊んでいた。</li> <li>・ 小さいヘビが人気でよかった。</li> <li>・ 腹の鈴のアイデアもよかった。</li> <li>・ 大きいヘビはちびっこに遊ばれても壊れたりすることがなく、強く作れてよかったと思う。</li> <li>・ おなかにつけていた鈴も取れずに遊ばれていたなのでそこがとても良かったと思う。</li> <li>・ 準備は役割を分担して、効率よく勧められた。</li> <li>・ 早く進んだため、小さいヘビや大きいヘビのおなかを鈴をつけたり等、楽しめる要素を増やせた。</li> <li>・ 幼稚園でもちゃんと手順を踏んで進められた。</li> <li>・ 思っていたよりも、小さいヘビや、鈴で遊んでもらえた。</li> </ul>
---

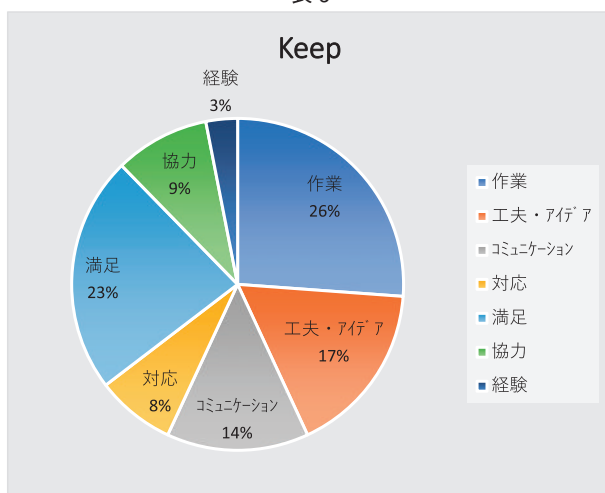
表3 Bグループ

<p>Keep</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自しっかりと仕事できていた。</li> <li>・ アイデアの段階でかなりレベルが高く、恐竜の子供うけも良かった。</li> <li>・ 班内の話し合いがスムーズにできた。</li> <li>・ 一日の作業スピードが速かった。</li> <li>・ 問題が起きた時の対応が早かった。</li> <li>・ ちゃんと子供向けの想定をし、子供たちはしっかりと受けた。</li> <li>・ 子供たちのうまく交流できた。</li> <li>・ 普段しゃべらないゼミの人と話せた。</li> <li>・ 共同作業で作品を制作する機会がなかなかないので貴重な体験ができた。</li> <li>・ 私自身が発達心理学の授業を受けていたことで子供たち同士のけんかに上手に対応することができた。</li> <li>・ 園児が喜んでいたことがなによりも成功でよかったと思う。</li> <li>・ 班のメンバーが、普段関わっていない人たちだったが、それなりにコミュニケーションをとれたのでよかった。</li> <li>・ 制作物、制作工程などについて班みんなで考え、制作できた。</li> <li>・ 完成後に補強をして、強度を上げてから幼稚園（保育園）に持って行けた。</li> <li>・ 子供たちと楽しくお話ししながら、教えてあげながら飾り付けができた。</li> <li>・ 子供たちに恐竜がうけてて、とてもグッドアイデアだった。</li> <li>・ 完成するまでもあまり時間がかからなかった。</li> <li>・ 作業が順調に進み、作業日内にダンボールアート（背びれの装飾を除く）を完成することができた。</li> <li>・ かなり完成度が高い作品になったと思う。</li> </ul>
--

表4 Cグループ

Keep
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間に余裕をもって早めに取り組むことができた。</li> <li>・2匹目の羊も作ることができた。</li> <li>・羊のデザインがかわいい。園児のウケも良かった。</li> <li>・園児たちと楽しくコミュニケーションがとれた。</li> <li>・全員で協力して作業を進めることができた。</li> <li>・しっかりと時間内で作業を終えられた。</li> <li>・班員のスケジュールを鑑みて、みんなが参加できるように工夫できた。</li> <li>・子供たちに喜んでもらえた。</li> <li>・楽しく活動できた。</li> <li>・全員が楽しく終わった。</li> <li>・作業がスムーズに進められた。</li> <li>・先生にも喜んでもらえた。</li> <li>・羊が土台だったり、もふもふなのがとてもよかった。</li> <li>・チームワークが取れた。</li> <li>・仕事が早かった。</li> <li>・ダンボールと花紙を活かして羊を考えたのは面白い。</li> <li>・小さい子たちと触れ合う機会がないので一緒になってお花を作ることで関わりを持てたし、子供たちから話しかけてくれたり、引っ込み思案になってもいろいろ対応してくれたことはうれしかったです。</li> <li>・あっという間にお花をつけてくれて心から楽しんでくれたようでこちらもすごく良い経験をさせてもらえました。</li> <li>・メンバーも迅速に動いてくれていて素晴らしかった。</li> <li>・大好評だった。</li> <li>・ダンボールがメインの材料だったため、環境にやさしい。</li> <li>・園児と交流できる内容だったため、園児にとっても学生にとっても刺激になった。</li> <li>・美術学部らしく、園児たちと創作したことが良い。</li> <li>・花紙自体が柔らかい素材だったため、園児たちから喜ばれた。</li> <li>・準備期間から班のメンバーで協力してスムーズに作業を行うことができた。</li> <li>・本番も事前に役割を決めていたため慌てることなく協力できた。</li> <li>・園児たちが楽しそうに花紙を作ったりはったりしてよかった。</li> <li>・子供たちが楽しんでくれた。</li> <li>・大きい羊と小さい羊の2つ作ったのは良かった。</li> <li>・全員笑顔で、やさしい感じで対応できた。</li> </ul>

表5



#### 5-4-1 Keepの活動のふりかえりによる結果からの考察

Keepの項目では作業全般についての記述が最も多く、続いて満足感やコミュニケーション、そして工夫・アイデアなどが多かった。作業内容についてはこれらの記述が上位にあることから推測できるようにお互いにコミュニケーションがグループ内で円滑に取れていた様子がうかがえる。さらに作品に対する創意工夫やアイデアなどがグループ内で大いに議論されていたことなどもわかる。学生たちは受身の姿勢だけでなく、作業を進めていく中で様々な提案を行なうというところは大変熱がはいっていた。学生たちが作品の問題点を理解しながら一生懸命作業しているところはグループ内の信頼関係が気づけており、大変意義がある活動だと感じた。

各グループがひとつのテーマ内容に沿って制作する活動は個人間でも良い交流の機会になっていた。グループ全員がひとつの目標を抱くことで仲間意識が強まり、積極的に意見を出しやすかったと考えられる。

5-5 活動のふりかえりによる結果 (problems)

表6 Aグループ

problems
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のスケールが大きかったこともあり、細部の装飾やデザインが雑になってしまったところもありました。</li> <li>・作品意欲に溢れるあまり、本体以外の関係のないものを数点製作してしまったこと。</li> <li>・作品に付ける花の作りが雑だったこと。また数が足りなかったこと。</li> <li>・園児を甘やかすすぎて危険行為（特に、ガムテープな口や目に付けるなど）を見過ごしてしまっていたこと。</li> <li>・子供たちがはしゃぎすぎていること。</li> <li>・遊べるものを作るのは良いが大切に扱ってほしいということを伝えていなかった点。</li> <li>・ダンボールでは強度に限界があった。</li> <li>・ガムテープを床に置いてしまったため、園児が遊びに使ってしまい、危険だった。</li> <li>・使い終えたガムテープを子供の手の届くところに置いていたので、子供たちが顔に張ったりして遊んでいたのはとても危険だった。</li> <li>・小さいヘビたちの強度が弱く、ちびっこに引っ張られたりしたらすぐはがれたり舌がとれたりしてしまったので、もっとしっかりつけるべきだった。</li> <li>・大きいヘビにつけるお花も少し少なく所々ハゲてしまったのでもっとたくさん作ってればよかったと思う。</li> <li>・小さいヘビの強度が低かったこと。扱いをもう少し説明するべきだった。</li> <li>・舌も取れやすかった。</li> <li>・お花が少し少なかった</li> <li>・お花が足りなくなってしまうので、みんなで確認をすればよかったと感じました。</li> <li>・ガムテープを顔に貼って遊ぶ子供がいたので、注意して一緒に制作すればよかったと思いました。</li> <li>・お花が足りなくなってしまうので、みんなで確認をすればよかったと感じました。</li> <li>・ガムテープを顔に貼って遊ぶ子供がいたので、注意して一緒に制作すればよかったと思いました。</li> </ul>

表7 Bグループ

Problems
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人の人にかかり頼りきりになってしまったかなと思う。</li> <li>・背びれのところをどうするかを作業日以内に考えておくべきだった。花も作っておくべきだった。</li> <li>・何度か集まりの悪い日があった。</li> <li>・メンバーによって作業の量に偏りがあった。</li> <li>・周りの作品に比べて色合いや小物のような物が足りなかった。</li> <li>・全体的に効率が悪かった。</li> <li>・幼稚園についてから役割を決めたこと。</li> <li>・幼稚園でダンボール作品に花をつけ始めてしばらくしたあと、手持ち無沙汰になった園児が多くいたこと。</li> <li>・全体的に園児とのコミュニケーションがぎこちなく、上手くコミュニケーションがとれていなかった。</li> <li>・仕切る人がこの班にはいなく、いざというときに人に任せたりしていたのでよくないと思った。</li> <li>・バスに乗せられる許容サイズを考えられなかった。</li> <li>・遅刻したりしたことかな（個人的）</li> <li>・園についてからの役割分担があまりうまくいかなかった。</li> <li>・制作時間が時間内に取らなかった。</li> <li>・園で、行き当たりばったりの対応になった。</li> <li>・園児と触れ合う時間が長く、少々手間取った</li> </ul>

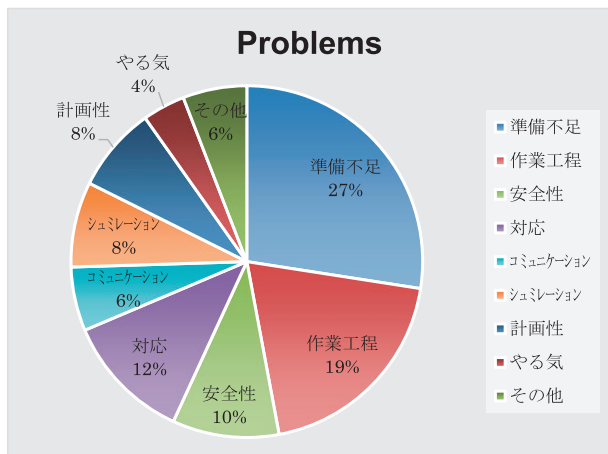
表8 Cグループ

Problems
<ul style="list-style-type: none"> <li>・羊が大きすぎて、園児のなかには上まで届かない子もいた。</li> <li>・羊のサイズが思いのほかバスキリだった。</li> <li>・用意していた花紙が若干不足気味だった。</li> <li>・花が少し足りなくなった。（しかし足りていたので大丈夫だとは思う）</li> <li>・羊の足がおられてしまった。（直したけど後が心配。）</li> <li>・花を作るのに小さな子は手こずっていた。</li> <li>・教える人の数が足りず、子供1人1人に対応するのは難しかった。</li> <li>・報連相が甘い場面があった。</li> <li>・先生にあれほどお花の数を心配されたのに少しだけ足りなかったのが心残り。</li> <li>・羊を作るときに仕事が早かったか、テーマが単純だったのかわからないけど時間が結構余った。</li> <li>・私の班は偶然問題なかったが、バスに乗せて運ぶことを踏まえて制作すべき。</li> <li>・花の数が少し足りなかった。</li> <li>・準備不足なところが見られた。</li> </ul>



- ・花紙が足りなかった。
- ・もっと色とりどりの花紙を作ればよかった。
- ・ガムテープをはる作業に手間取ってしまった。
- ・花が少し足りなかった。
- ・全員での事前打ち合わせをしておいて、もっとスムーズに進められれば良かった。(当日)
- ・子羊の足が折れてしまった。

表9



#### 5-5-1 Problemsの活動のふりかえりによる結果からの考察

Problemsの中で最も多い回答は準備不足であった。あとは、個々の問題が多いのでその他が多くなった。毎回のことであるが活動中の多少のトラブルは、つきものである。ミスをすればその都度、反省はするが、しかし

有効な対策を講じようとは考えない傾向にある。

その理由としては、活動が頻繁にあるものではないからでもある。活動中に何か不足があったとしてもその場しのぎの対応である。抜本的な対策も特に話し合うこともなく、教員サイドから言われて初めて活動前日に運び出すものの確認くらいするのがやっとなのである。ほとんどのグループは当日に確認で十分用をなしていると考えている。シュミレーション不足とグループの活動であるがゆえに、他人任せなどところがあるのは否めない。

このふりかえりによって全員が積極的に意見してふりかえることでグループ活動の内容がより良いものになり、それがすべての活動へ達成感につながっていくこと及びこのようにグループ内でコミュニケーションが活発に行われることでよりより制作活動へと導かれることに期待したい。

意外な回答としては、幼児への安全性への配慮などの他者への気配りや作品の強度など相手側への目線で活動ができていたことであった。想像以上に作品制作以外にも幼児たちへの安全性への配慮を上げている回答があった。

#### 5-6 活動のふりかえりによる結果 (TRY)

表10 Aグループ

Try
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品は更に良い物になるようにクオリティを上げられるように頑張ります。</li> <li>・幼稚園では園児たちと一緒に楽しむことは大事ですが、楽しむだけでなく園児たちの安全を常に意識し、より良い学びの場に来るように頑張りたいと思います。</li> <li>・園児など遊ぶ側におよぶ危険を考えて行動する。</li> <li>・相手に喜んでもらえるような作品制作に取り組む。</li> <li>・ガムテは、子供たちの手の届かない場所に置く。</li> <li>・小さいヘビがちびっこのアクティブさに負けてポロポロになってしまったので次からは強度を上げて作りたいと思う。</li> <li>・舌が取れやすかったのもう少し作り方を工夫したいと思う。</li> <li>・小さいヘビが人気だったから、遊べる要素のあるものはもう少し強度を上げて、子供たちが十分に遊べるようにしたい。</li> <li>・自分たちの思っていないところにお花がはられて少し足りなくなりましたから多めに作る。</li> <li>・子供たちと一緒にすべて制作できるようにしたかったです。</li> <li>・お話とか積極的にできるような環境作りが大切かなと思いました。</li> </ul>

表11 Bグループ

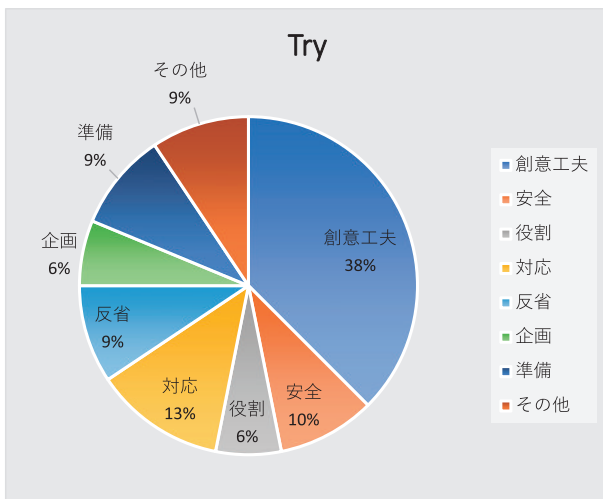
Try
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作っている途中や終わった後で、2つしたほうが良いと気づくこともあるので、余裕をもって作業を終えられるようにし、終わった後の余った時間を改良点や直す時間にあてる。</li> <li>・仕上げを自分たち以外の方がやる場合には、それを想定して最終形を細かいところまで想像しながら作れるとよいかなと思う。</li> <li>・もっとメンバー1人1人に作業を上手く割りする。</li> </ul>

- ・子供たちと触れ合うとき、花の作り方を教えるときの進行の仕方などを事前に考えたほうがスムーズにできた。
- ・ダンボール作品を作るときの作業の役割分担。
- ・手持ち無沙汰になった園児たちをどうするか。
- ・全体的に計画をたてる。
- ・もう少し、積極的に行動しようと思った。
- ・園児と距離を縮めたい。
- ・バスに乗せられる許容サイズを考えて、分解して、あとから組み立てられるものなどを考える。
- ・大きいもの1つ、小さいもの1つで作ってみても良かったかも。
- ・グループで協力することには計画性が大事になる。
- ・予行演習は必要
- ・作業予定の明確化
- ・予行演習

表 12 C グループ

Try
<ul style="list-style-type: none"> <li>・花紙の切り方をハサミでアレンジできるので、それを園児さんたちにやらせてあげても良いかもしれない。</li> <li>・もっと楽に安定して組み立てられるようなつくりを模索できそう。</li> <li>・園児たちが自ら創造的な考えを持てるような企画がいい。</li> <li>・もっとアクティブに体を動かすような要素があっても良いかもしれない。</li> <li>・園児も先生も一緒に楽しめるような要素があっても良いかもしれない。</li> <li>・子供でも楽しめそう簡単な工作。</li> <li>・子供たちのパワーが強すぎるので、負けないくらいの気持ちでいかないと大変です。</li> <li>・子供誰か一人ではなく全体に目を通せるようにした方が良いです。</li> <li>・園児たちと一緒に創作するのは続けるべき。</li> <li>・目的意識をもってやったほうがよりよい活動になると思う。</li> <li>・同じようなことをするときには、子供たちが乗れるように中に強度を高める工夫をしたいと思った。</li> <li>・花も、ダンボールで作る土台も、もっとたくさん用意して長い時間楽しめるようにしたい。</li> <li>・1人1色ずつくらい、花を作ってもらいたい。(思っていたより上手で、早くて、楽しそうだったから)</li> <li>・当日の流れを、事前に全員で確認するようにしたい。</li> </ul>

表 13



5-6-1 TRY の活動のふりかえりによる結果からの考察

TRY の項目では創意工夫の記述が多くを占めた。

創意工夫など、今後どのようにしたいのか具体的な記述を上げる学生たちの姿勢には、熱意の度合いの大きさがうかがえる。活動自体グループ単位でのやる気はかなり左右されるが、各グループ共に積極的にこの先の工夫を提案している。

その他、現場での幼児対応だったり、安全性など意外な回答があった。ここでは学生たちの活動は、制作して完成だけを目的をしてるのではなく、活動全体の安全性や対応などにも気を配っており、社会に出る前の大学生から教育の入り口と言える幼稚園、保育園児との同じ地域でめったに交じり合うことのない学生や園児同士が年上から年下への世代へとアートを楽しさを伝えるだけでなく、様々な配慮を考えているのが見られる。異世代交流の図式がはっきりと伺える記述であった。

この活動がどうであったかという振り返りだけに終わらず、それをもとに次の活動ではどうするのか どうしたいのかという、次の探究活動につながることに期待する。

## 6. ジェネリックスキルアンケートの分析結果

今回アンケートの対象は、2年生の20名とした。地域活動に参加することによる学生自身の変化について項目ごとに数値を出し、全体的に自己評価を分析した結果が以下である。

評価方法は5段階とし、高い順の数値「5」から低い順の数値「1」とした。過去の比較対象のデータがないため、今年度の学生に限定しての単年度分析結果である。アンケートの中でもっとも高い数値項目は6. チームで作業する力 9. 最後までやり抜く達成感 1. 地域活動に対する興味関心などが上位を占めた。

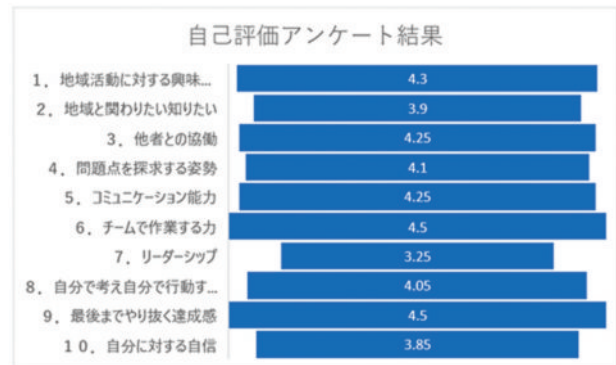
逆に数値が低かった項目として7. リーダーシップ 10. 自分に対する自信 2. 地域と関わりたい・知りたいという気持ちが低い評価値であった。アンケートはラン

### 1. 地域活動に対する興味関心 (4.3)

地域活動に対する興味関心の評価は高く、地域に直接貢献できていることや、多少なりとも地域に影響を与えているという実感があり、楽しく活動できていたようである。この活動を通してもっとアート楽しさを地域住民に知ってもらいたいという気持ちが活動を通して芽生

ダムに学生の自由記述から抜粋したため、文章など多少不自然な部分があると思われるが、訂正することなく記載した。

表 14



え、もっと他の施設にも関わっていきたいという回答もあった。地域の人々が何を求めているかを知ること、クライアントが何を求めているかを理解するという将来的な仕事に対する姿勢が身につくなど地域活動に対する関心の高さが伺えた項目であった。

表 15

1. 地域活動に対する興味関心 (自由記述からの抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から地域活動に対して興味関心を強く持っていましたが、今回の経験を通じさらに地域としての活動に興味を持ちました。</li> <li>・高校の頃にボランティアなどをしていて、地域の人たちに喜んでもらえるような活動には以前から興味があったので、大学で授業を通して、このような活動があつてよかったなと思います。</li> <li>・実際に行事に参加したり幼稚園に行くうちに、「楽しい、またやりたい」という気持ちが強まっていった。地域活動として、美術と子供達とを触れ合わせる事が出来ると気付いた。</li> <li>・地域活動を経て、特に子供達と触れ合うことで地域の活性化に直接貢献できることで、自分が多少なりとも社会に影響を与えているという実感が湧き、楽しいと思えた。</li> <li>・このような地域活動やボランティアの活動を授業の一環で設けてもらったことで自発的に動かなければ体験できないことなので結果的に楽しくできて興味は持てました。</li> <li>・自分たちの制作が地域に貢献出来たり、認めてもらえたことが、とても嬉しかったです。また、どんな形でも、喜んでもらえることが、とても勉強になりました。</li> <li>・みんなで協力して大きなものを作ったり、それを地域の人に見せた時に評価してもらえたりして、とても楽しかったし、自分の力になったと感じる。</li> <li>・前回より本腰を入れて作業に取り組むことが出来たと思います。メンバーと切磋琢磨して一つの作品を作る楽しさを地域活動を通して得ることができました。</li> <li>・今回この地域活動を通して、仲間との作業や幼稚園での交流で体験したことのないものを多く学べ、コミュニケーション力や作業計画、効率なども、今までは違い成長できたと思ったから。</li> </ul>

### 2. 地域と関わりたい・知りたいという気持ち (3.9)

この活動交流を通じてもっと関わっていききたいという回答は多かったが、地域活動に対する興味関心よりも低い数値であった。興味関心があることによるその先の関わりや知りたいという気持ちが湧いてくるのだと予想し

ていたが、実情は関わりたいという思いだけで今後はそれほど知りたい、関わりたいという気持ちは強くはないという結果であった。

表 16

<p>2. 地域と関わりたい・知りたいという気持ち（自由記述からの抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で行われている様々な活動を通じ（それらに参加したり等）知っていきたく強く思います。北広島の広報誌を読むようになりました。</li> <li>・地域の子どもたちと触れ合い、楽しむことができて良かったです。</li> <li>・地域自体に対する探求心はあまり強まらなかった。地域というより、「地域活動」という活動に関して興味が出た。</li> <li>・地域ともっと関わっていきたくというよりは、地域の活性化に役立つ“ものづくり”の方に力を入れていたため、さほど地域と深く関わっていきたくという思いは強くない。</li> <li>・今回は幼稚園にお邪魔されてもらって園児たちと楽しく触れ合いましたが、何か違う形での交流だとどうなるのかと考えるところがあります。</li> <li>・大学に入学してからも、地域についてあまり関りをもたないほうだったので、今回の活動を通して、より良く地域について知る機会に繋がったと思います。この地域にどんな施設があるのか、どのようなイベントが行われているのかなど、これからも何かしらで関わってみたいです。</li> <li>・幼稚園に行ったりして、小さな子たちと楽しく交流できて、自分たちが作ったもので、楽しんでもらえることがすごく素敵なことだと感じた。</li> <li>・子供たちの笑顔はとても華やかで記憶に残りました。作ってよかったと感じました。しかし、まだ授業に一環としてやっている感じも否めないため、もう少し地域に対する興味や関心を高めたいと思います。</li> <li>・子供たちの喜ぶ姿や先生たちからの感謝の言葉など達成感があった。また人の喜んでいる姿がうれしかった。</li> </ul>
---

### 3. 他者との協働（4.25）

他者との協働は、目的意識を共有し共通の目標に向かって達成に力を尽くすことや、お互いが対等の立場でそれぞれの特性を活かすことが重要であり、自分自身、何ができるのかを知らないと行動することさえできません。「自己や他者の能力をある程度把握し仕事を割り振れたと思う。」「みんなにそれぞれ役割を振って、それぞれ自分の仕事をまっとうできたと思う。」「仲間と協力する中で自分の長所・短所だけでなく、仲間ひとり一人の強みなどを理解し、お互いに補うことができた場面が何

度かあった。」「今回の活動で、班員と協力しながら制作など進めていく中で、しっかりと役割分担をし、お互いの得手、不得手をすり合わせながら、互いに補い合うことができた。』

このように地域活動で何か作業する時に、同じゴールを持つ仲間同士、自分は何ができるのか、仲間は何が得意なのかを知ることにより、作業がうまく進み、それぞれが相手を意識しながら作業していると言える。

表 17

<p>3. 他者との協働（自由記述からの抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の活動で、班員と協力し合いながら制作などを進めました。しっかりと役割分担をし、お互いの得手不得手をすり合わせながらお互いに補い合うことができたと思っています。</li> <li>・どんな形や物にすれば、子どもたちが喜んでくれるかをグループの人たちと話し合ったり、ダンボールを組み立てる際に考察しながらみんなで協力し合って組みたてました。</li> <li>・自分が得意だったり、やるべきだと思った仕事は自ら積極的に取り組めたと思う。自分以外のメンバーはどんな事が向いているか等、周りの人までには気が回らなかったのも、もう少し考えられるようになりたい。</li> <li>・仲間と協力する中で自分の長所、短所だけでなく仲間一人一人の強みなどを理解しお互いに補い合うことができた場面が何度かあった。</li> <li>・各々のできる範囲で作業ができたと思います、仕事を割り振りして真面目にできていました。</li> <li>・主に制作過程で、他の人と協力して目標達成に向かって活動できたと思います。ひとり一人が完成に向けて、アイデアを積極的に出して制作できたところが良かったと思うし、どうしたら喜んだり、驚いたりしてもらえるか考えることが、また理解にも繋がったと思います。</li> <li>・それぞれが得意なことを活かしながら、何日間にも渡って作業できた。自分の仕事が早く終わっても、遅れている人の分を手伝うなどの行動も見られてとても良かったと思う。</li> <li>・センスのある人や作業が丁寧なメンバーなど、今回あまり役立つスキルがあまりなかったため、活躍することができませんでした。自分なりに活動にためがなりました。</li> <li>・みんなそれぞれ役割を振ってそれぞれが自分の仕事をまっとうできたと思う。</li> </ul>
--

#### 4. 問題点を探求する姿勢 (4.1)

探求する姿勢を持つことで、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することと目的とします。課題解決に向けた知的欲求を高めていくことで、仲間と切磋琢磨しながら協同的に課題を解決することで、必要とされる知識や技能の習得を深めていくと言える。

知識や技能などが相互に関連付けられ、総合的により

制作活動が期待できる。ただこの項目は平均を下回った「誰かに任せて受け身になってしまっていた部分があった。」

作業がスムーズだったので問題点を探求することが少なかったなど、こちらからの活動の課題に多少問題があったとも言える。

表 18

<p>4. 問題点を探求する姿勢 (自由記述からの抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボールで立体を作るという点で、自立するものを作ったときに、安定するようにバランスを調節したり幅や角度などの点を調べたりなどして、解決するまで試行錯誤しました。</li> <li>・現場でのアドリブなど、もう少し子どもたちが困らないように、用意周到に試行錯誤をしてもう少し準備をしたり、動けば良かったと反省しております。</li> <li>・次やる時はこうしよう、とかこのままだと良くないな、等、先の問題や反省点をしっかり考えられたと思う。</li> <li>・自ら探す力は特に成長は見られなかった。しかし問題が見つかったからの対応はそれなりにできていたと思う。</li> <li>・作業を始める前と後で問題点がないか話し合い、うまく対処できていたと思います。</li> <li>・制作している途中で、そこまで大きな問題は起こらなかったですが、見映えについては、多くの指摘をもらって、そこはグループでも意見が分かれた部分かなと感じました。お花について意見の差異がうまれていたので皆で協力して取り組めたことが良かったです。</li> <li>・あまり問題点が出ずにスムーズに進められたので強度など細かな部分の対策などを考えて作れたので良かったと思う。</li> <li>・制作において、細かい部分や構造が当初に設計通りにはいかず欠陥などが発生した際は臨機応変に対応して処理や変更ができた。同時に問題がなぜ起きたのかを明確にし、今後の活動に役立てるように反省できた。</li> <li>・私たちの班は本体が早めに完成したので、いろいろな要素を加えたり、強度を上げたりなど、それぞれ気づいた点を修正できた。</li> </ul>
---

#### 5. コミュニケーション能力 (4.25)

自分を表現するためには、とても大切なことであり、相手と面と向かって話すことや自分自身の意見を相手に伝え、相手の意見をきちんと受け入れることで、相手と話すことの大切さを知る。ここでの項目は平均値を上回った。デザインを専攻する学生たちは比較的コミュニケーションを取ることが苦手な学生が多い。一人で制作作業する時間が長いことも関係しているのかもしれないが、内側にこもりがちな学生が目立つ。

そんな中で地域活動を行う上での大きな目的の一つと

してコミュニケーション能力の向上を掲げている。アンケートでは、全体的なコミュニケーションでは多くの学生から向上がみられる。

一部活動場所での園児との関わり合いについて上手く対応できていないという内容もあったが、全体のアンケート内容の結果から判断すると決して悪い内容のものではないと考えられる上で確かな向上が見られると言える。

表 19

<p>5. コミュニケーション能力 (自由記述からの抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班員とのコミュニケーションはもちろん、保育園幼稚園の子供達とのコミュニケーションも努力し、よくできたと思っています。</li> <li>・グループの中では話し合いなど、意見を出したり、コミュニケーションは上々でした。</li> <li>・チームのメンバーや地域の人と関わり、積極的にコミュニケーションを取れるようになったと思う。</li> <li>・一人一人の性格や技能に合わせたコミュニケーションができてきた。自分のコミュニケーション力を見直すにはいい機会になった。</li> <li>・作業中に必要だと考えたことを伝えたり、園児との交流でも苦なく触れ合えました。</li> <li>・地域活動に参加して、様々な世代の人たちと一緒に活動することが以前よりも増えて、他の人とコミュニケーションを図ることで自分考えを深く見つめ直すことができたと感じました。</li> <li>・仲間同士コミュニケーションはもちろん、幼稚園の先生、園児たちとも仲良く話せることができてコミュニケーション能力が上がったと感じた。</li> <li>・グループ内での意思疎通はもちろん、活動場所の園児や先生たちとの挨拶や雑談を通してコミュニケーション能力の向上を実感できることができました。</li> <li>・子供たちと話すのは年が同じくらいや年上の人と話すのとは違うから言葉選びなど、そのような点でも向上したといえる。</li> </ul>
--

6. グループで作業する (4.5)

個人でどれだけ優れた能力を持ってしようと、一人の人間の発揮できる力には限界がありますが、グループでお互いの意見を出し合うことにより、新たな気付きや発見が生まれる。メンバー同士での情報共有・コミュニケーション促進が欠かせません。

作業での役割分担が明確であったことや普段は個人での活動が多い中で仲間と共同作業が楽しかったり、1つの目的意識に向かっていい雰囲気で活動ができたのが項目での最も良い数値の要因であったに違いない。

表 20

6. チームで作業する力 (自由記述からの抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数で時間をかけてひとつの物を作ったのは初めてだったが、時間に余裕を持って、最終的に良い雰囲気で作業を終わらせる事が出来た。</li> <li>・ 能力に合わせた作業分担や適度に仕事を与えたり、自ら仕事を見つけたりと効率的な動きを心がけることができた。</li> <li>・ 初めてダンボールアートをしてみてもわからないなりにみんな協力しあえたり、創意工夫しあい、自分もできることができたと思います。</li> <li>・ 私たちのグループは仲が良く、短期間で完成できたことも大きかったです。また早く終えたことで、デザインについても、改めて考えることができたので良かったです。</li> <li>・ 期間内でどこまで終わらせるか等、計画を立ててその通りに進めることができたし、時間が余った時制作物も工夫ができた。みんなで作業していて、作業していない人がいない状況だったのも良かった。</li> <li>・ 活動全体を通して、今自分には何ができるのかということを中心に考え行動することを心掛けていました。その結果、他の人たちと連携もとることができて、上手く作業分担し効率よく進めることができた。</li> <li>・ 与えられた仕事はきちんとこなせていたと思う。</li> <li>・ 3. で述べた通りですが、お互いに補い合い、支えあいながら作業することができました。</li> <li>・ とても楽しかったです。これをこうしたら良いんじゃないか。と作業しながら、見映えなどを考えたり、作業中は楽しかったです。</li> </ul>

7. リーダーシップ (3.25)

最も数値の低かった項目がこのリーダーシップであった。リーダー以外は特に積極的に動いてはおらず、受け身になっていて、自分の作業以外は指示されるのを待っている場面もみかけた。

リーダーシップを発揮するのではないと説明し、グループのメンバー各自が各々の役割に責任を持ってやるべきことをやる、リーダーシップはグループ全員に求められる力と説明したが、学生たちにはリーダーシップ=統率力などの意識が強いようである。

リーダーシップについては、決してリーダーだけが

表 21

7. リーダーシップ (自由記述からの抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事の割り当てや進捗確認など、班員の状況把握を主にリーダーシップを発揮できたと思います。</li> <li>・ 自分にはリーダーシップ性はありませんが、みんな協力的でゆるく会話を楽しめるように、グループのリーダーはしていたと思います。</li> <li>・ 成り行きでリーダーをやった場面もあったが、司会や、役割分担を考えて伝えたり等をしただけなので、特に目立ってリーダーシップは取っていなかったと思う。</li> <li>・ 全体的な視野は広がり、状況の把握などはある程度できたが、具体的に誰にどのような仕事を割り振るかは受け身になっていた。</li> <li>・ 私の班のメンバーが統率性に長けた人が多かったので、自分はサポート側に徹して役割を果たしました。</li> <li>・ 私はリーダーではなかったのですが、皆をまとめることは少なかったですが、園児のこどもたちをまとめたり、コミュニケーションの取り方がまた異なってくるのでそのような能力が必要になることを感じました。</li> <li>・ 自分はあまりリーダーシップを取れなかったと感じる。他の人が考えてくれたものにそって作ったりしていたので。もう少しリーダーらしい行動が取れたら良かったと思う。</li> <li>・ 私は今回リーダーではないことに甘え、リーダーシップを取り、メンバーを導くことはすくなくなかった。それが反省点でもあります。その代わりに、メンバーの一員として自覚ときちんと持ち頑張ることが出来たと思う。</li> <li>・ 基本的に指示する役割だった、また他の人も問題なく動いてくれていたのできちんとできていたと思う。</li> </ul>

### 8. 自分で考え自分で行動する力 (4.05)

役割分担がはっきりとしているグループが多かったため、自分の考えを交えながらの行動ができていた。デザイン専攻の学生たちは比較的、創作しての制作が多いためこの項目の行動は得意としている。自ら課題を見つけて作業に取り組んでいた。

自ら考え動ける学生は、受け身や指示待ちの姿勢をとることはなく、活動そのものを楽しみながら、やりがいを感じていた。将来的にもこのような「主体性」や「自分で考え行動できる人」が求められるに違いない。

表 22

8. 自分で考え自分で行動する力 (自由記述からの抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に割り当てられた、割り当てた仕事に関して、どうしたら解決できるか、何が良いのかをしっかりと考え、行動に移すことができました。</li> <li>・わからないならまず聞く。自分にできることを探し、やるという基本的なことはできていたと思います。</li> <li>・自分でやれることを探し、積極的に取り組めたと思う。チーム活動でも、必要だと思った事を皆に伝えたり、自らの考えをまとめ、行動した。</li> <li>・多少は考えや行動力がついたと思うが、やはりどこか受け身になってしまう癖が抜けずにいる。</li> <li>・作業内容は難しいものではなく、メンバーの行動が迅速だったので、こうすればいいのではないかと提案することが多かったかなと思います。</li> <li>・段ボールで制作動物を決めるところから、自分たちでデザインを考えたので、どのようにしたら効率的で実用性がアイデアを考えたり、積極的に行動することが出来たと思います。</li> <li>・自分の作業が終わったときも、終わってない人の分を手伝ったり、最初に予定になかったことできて、良かったと思う。</li> <li>・作業時、周りを見ることにより、自分のできる仕事を自ら見つけ行動することが度々ありました。一度手を付けた作業は最後まで責任をもって終わらせた。</li> <li>・私は指示を出していたけれど、すべて割り振らず、きちんと自分の仕事もこなせていた。</li> </ul>

### 9. 最後までやり抜く達成感 (4.5)

作業全体の工程での達成感は少なく、ワークショップで人が楽しんでいる姿や、人の喜んでる光景を見ての達成感が多くを占めた。項目では2番目に高い数値であった。

課題に取り組んで、結果を出した経験は、大きな自信へと繋がり、成功によって得られた自信は、どんな難し

い事態に直面しても、「必ず出来る」という確信を伴い、成功の達成感は、諦めない心を育てるのである。

最後までやり抜いた経験は、次の目標に向かう情熱に繋がるのである。ほとんどの学生が大きな達成感を味わうことができたと感じている。

表 23

9. 最後までやり抜く達成感 (自由記述からの抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボールの素体を完成させた時はもちろん、子供達と飾り付けをし、それを完成させた時はとても達成感を得ることができました。</li> <li>・完成した時には「どうせやるならば完璧に」という思いでやっていたので、とても良いものになったなと感じました。</li> <li>・ダンボールアート活動も、しっかり取り組んだ分達成感を得られた。置かれた状況の中で、自分の出来る限りの力を出してやり抜けたと思う。</li> <li>・仲間と協力して努力したものが形になることの達成感をとても味わえた。</li> <li>・自分が主体で動いていたわけではないし、あくまでサポートという立場でしたが、子どもたちも楽しそうにしているのが見受けられたのでたせ見受けられたので達成感がありました。</li> <li>・どのグループよりも大きな制作物が作れたのは、グループ皆と協力して制作できたことが大きいと思うし、こだわりや工夫も、子供たちに喜んでもらえたりしたのは、とても達成感ややりがいを感じました。</li> <li>・大きい作品を作るということは大変だったけど、作品を見たときに子供たちや園の先生たちの反応を見てとても達成感があった。楽しんで遊んでくれたし良かった。</li> <li>・今回私たちが制作した作品を子供たちが見たときにとてもキラキラとして目をしており、それを見たときは、とても大きな達成感味わうことができた。</li> <li>・子供たちの楽しんでいる姿を見て、後にいろいろ考えて付け足し、工夫して良かった。</li> </ul>

10. 自分に対する自信 (3.85)

ネガティブな評価をしている学生はこの活動で自信つきたとは思っていないという回答が多かった。自発性や自己肯定感が低いことや、活動前と比べて特に自信がついたとは言えないという内容である。

反対にこの制作活動で新たな可能性を抱けることができたり、苦手だった人との関りやコミュニケーションな

どが克服できた。子供たちが喜んでる姿を見て自分の活動に意味があったんだと強く感じたなど回答が大きく分かれた項目であった。

この活動がこの先良い経験だったという自信に繋がることに期待したい。

表 24

<p>10. 自分に対する自信 (自由記述からの抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つのプロジェクトをしっかりと達成することができ、自信がついたように思います。</li> <li>・とりあえず、やってみるというのは本当に大事だなと感じました。</li> <li>・特に自信が持てたとは思わないが、逆に、自信が無くなるような失敗も無かったと思う。</li> <li>・多少の受け身癖はまだ抜けてはいないが、自分の能力、仲間の能力を理解した行動を考える力がついた。</li> <li>・作業中にもっと自発的に動けばよかったと思うところがありますが、幼稚園でやれることはできたのではないかと思います。もっと自発性をもって行動できたらと反省です。</li> <li>・私は今までで平面的な作品構想しか練ったことがなかったので素材が決まっている状態で、立体的な作品を作ることができて、新しい可能性を抱けることができたのではないかと感じました。</li> <li>・子供たちが喜んでくれたから自分がやったことに意味があったんだと強く感じた。リーダーシップをとったり、設計するところにも、もう少し積極的にならたらと思う。</li> <li>・問題を解決したり、自分のやるべき仕事を見つけて取り組んだり、地域活動の自己評価は良かったと思う。しかし、いざ終わってみるともっと自分にできたことはなかったのだろうかという懸念が湧いてきたので全力を尽くせたいと思えないと思う。今後の活動はもっと力を入れて終わってからは、やりきったと思えるくらい頑張りたいと思います。</li> <li>・今回リーダー的役割をして不安もあったが他の人が問題なく、動いてくれたので自信がついた。</li> </ul>
---

7. 幼稚園・保育園の教員による評価

学生に対して活動現場で実践的な活動を行うことが、教育活動としての効果だけでなく、同時に地域に貢献しているかを検討するため、各施設の教員を対象にアンケート調査を行なった。終始活動には協力的であり、アンケート調査にも丁寧な回答していただいた。

このアンケートでは、

- 1.「今回の学生の地域活動（ワークショップ）についていかがでしたか。」
- 2.「学生活動の様子や態度はいかがでしたか。」

の質問について「満足」・「普通」・「良くなかった」の3つの選択肢で回答を求めたところ1施設が「普通」という

回答で他はすべて「満足」という回答であった。事前のヒアリング調査では、「園児たちが安全に活動できるのか」という質問があり、学生の様子や態度の項目を付け加えた。

また、記述式アンケートの項目には

- ①今回、学生地域活動を受け入れて、貴施設にとって良かったと思われる点を教えてください。
- ②今後、学生が貴施設で活動をさせていただくとした場合、どのようなものを希望しますか。ご要望などございましたらお書きください。
- ③今回の学生地域活動について、ご意見・ご指摘などございましたらお書きください。

以上3つの項目に記述でアンケートをいただいた。

表 25

<p>①今回、学生地域活動を受け入れて、貴施設にとって良かったと思われる点を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壮大なダンボールアートに子ども達も参加させて頂き、身近な素材で遊ぶ楽しさを味わうことが出来たことが良かったと思います。</li> <li>・年少には少し難しいかと思った活動でしたが、寄り添って教えてくださる学生のみなさんがいてくださったので“できた!”と子どもたちも達成感を感じられたり、楽しい気持ちでいっぱいでした。作ってその場で遊べることができたのが、とても良かったです。</li> <li>・年中、年長組にとって、少し難しい点がやりがいがあって楽しく、達成感があったように思います。劇の練習期間であり、ヒツジとリンクして、とても喜んでいました。</li> <li>・大学生と交流できたことで活動にとっても期待感が持てたと思う。あまりこのような機会もないため、こども達も楽しんでいました。</li> </ul>
--



表 26

<p>②今後、学生が貴施設で活動をさせていただくとした場合、どのようなものを希望しますか。ご要望などございましたらお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達と一緒に参加できる活動が嬉しいです。</li> <li>・子ども達は何でも新鮮な気持ちで楽しむので、どんな活動でも良いです。</li> <li>・今回のワークショップのようなものがいと思います。遊べるおもちゃやゲームなど見るものではなく体と使って行えるものが良いかと思います。</li> <li>・作って遊べる制作、鑑賞会など</li> </ul>
--

表 27

<p>③今回の学生地域活動について、ご意見・ご指摘などございましたらお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい活動を企画して頂き、ありがとうございます。ダンボールがお城とヘビに変身し、更に色とりどりの花が装飾されたことで、子ども達は驚きと喜びで終始笑顔で活動に参加させて頂くことができました。準備なども大変だったかと思えます。ありがとうございます。</li> <li>・今回当園で活動していただきありがとうございます。子供たちもワクワクして待っていたので、活動ができて喜んでいました。小さい子供たちと関わる機会は多くないと思うのですが、“やりたい！”という気持ちが大きいのでテンポよく次から次へとやることを提案していくと活動がスムーズに進むと感じました。子供たちに楽しい時間、新鮮な活動を体験させていただきありがとうございます。</li> <li>・学生の皆さんが笑顔で明るく教えて下さったので、少し緊張気味だった、子ども達もすぐに打ち解けることができました。事前に何名の学生さんが来園されるのか教えていただけると助かります。また、ぜひよろしく願いいたします。貴重な体験をさせていただきまして、ありがとうございます!!</li> <li>・今回は子ども達のために素敵な活動をして頂きありがとうございます。たくさんのお花でライオンの飾りつけをしたり、自分の咲いた花が一部分になることを楽しんでいたと思います。活動後、子ども達は「男の子なのか女の子なのか」「名前は何なのか」「エサは何にしようか」考えて話していました。最初にそういった設定を聞かせていると、より意識的になったり、興味を持てると思えました。</li> </ul>
--

上記の回答からは、学生が地域活動の現場に出て学ぶことが、子どもの幼児教育に対して良い影響を与えていることがうかがえる。つまり、学生の地域活動での実践的ワークショップは、地域の子どもたちの育ちについて貢献できていると考えられる。

このアンケート結果を学生にフィードバックすることで学生たちはこのアンケート結果を受け入れ、次回の活動へさらなる高いモチベーションをもって臨むことを期待する。

このようなアンケートのフィードバックは学生の自信や、やりがい、達成感に繋がりさらなるスキルの向上や改善へ寄与していると言える。このようなアンケートからのフィードバックは活動をする施設側への理解に役立ったと考えられる。

## 8. 課題

はじめは、自分たちの活動を共有できていないことや、他の活動に追われて時間が無いなどを理由に、この制作活動に集中していないなどグループ活動であるが故に他人任せなどの問題も生じていた。行政や施設との調整、活動の進め方、教員のサポートやフォローに対する期待などがあり、受け身の活動になっていた。班員はリーダーに依存し、リーダーは教員に依存するなど主体性の形成に大いに課題があった。まずは自らの主体的に動く

というような概念を一人一人の学生に根付かせなければ、いつまでも活動自体がやらされている感覚から抜け出せず主体的な活動にならない。

ただ、そのような概念を全員の学生に持たせるのはかなり困難である。せめてグループに一人か二人でもリーダーシップを自ら取り、主体的に活動を率先できるような学生が出てくれば、それに続いていく学生も決して少なくはないはずである。そのためにはグループにどの学生を配置するかなど学生の資質や能力などを知ること重要になってくる。

理想である「学生主体の地域活動」を目指すには大きな課題であることは間違いない。活動において、アートをどのように活用して活動したら良いかと学生に尋ねると、アートを使った表現活動を実現したという思いは強いがそれを実際に自ら主体的に活動したいという声は少ない。アートでの表現活動で学生たちは十分に楽しさを感じているのにも関わらず、それを地域の活動で表現することにあまり興味を感じていないのが残念であると同時にやはり活動に関わる自主性が大きな課題となる。

その他には、活動のための安定した資金の調達、新たな活動の場所の新規開拓などがあげられる。冒頭で活動資金について話したが活動場所の設定について資金調達という補助金が確実にできれば、前もって行動を起こすことが難しいのである。毎年、定まった額の活動資金を獲得できるとは限らないからである。その影響もあり、

活動はタイトなスケジュールの中で余儀なくされるのが現状である。

## 9. まとめ

学生による地域活動はそれぞれの施設活動において、幼児たちの教育に良い影響を与えており、アートのワークショップ活動でのアートの楽しさを知る効果があらわれていることを、まず評価すべきであろう。主体である学生について見ると、自ら考え、行動を起こし、その結果を感じるという一連の過程を通じて、企画・制作・実践・アンケート結果からのフィードバックの検証などの一連の流れをこの活動を通して身につけることで極めて効果的な学びを自ら行っていることは、社会に出てから必ず役に立つものであると考えられる。加えて、地域に対して何らかの貢献をしているという満足感を抱く学生も多く、これらの経験は今後大きな影響を占めるものと思われる。

活動のグループによって活動意欲に温度差はあったものの、全体としては良い活動として認識されていることが確認された。今後もワークショップ型の地域活動の学びで表現教育の改善を重ね、このようなスタイルの教育の可能性を広げるには、今後も活動内容の質を向上させることを目指し学生生活活動として続けていくことが大切である。

地域活動のアンケート結果では常に良好であった。もちろん、活動内容としては、さらなる改善する余地がある部分が多々あると思われるが、これらの結果からは、活動に対する学生と施設側の双方にとって継続していくべきものだと読み取れる。

今回の学生地域活動においては、学生たちが活動後のフィードバック結果から今後の活動において地域社会にどのような貢献が考えられるのか、地域と関わる中で学

生たちが地域の中で学び、そしてその学びを地域にどのような形で活動していけるのかを模索し、いつも良い活動をしてくれているという結果を常に地域の方々に認識していただけることが本当にの意味で地域と大学が相補の関係であり、地域共生が成り立つのでないだろうか。

この取り組みによる本研究は「北広島市地域活動支援事業」の補助金を受けて実施された。

## 引用文献

前田ちま子 (2002) 「なぜ“ワークショップ”だったのか」  
高橋陽一監修 杉山貴洋編集「ワークショップ実践研究」武蔵野美術大学出版局 pp50-65

## 参考文献

加藤幸次 (編) 教職研修総合特集『『生きる力』を育てる評価活動』教育開発研究所 1998  
木村佐枝子 大学と社会貢献 学生ボランティア活動の教育的意義 創元者 2014  
堀公俊「ワークショップ入門」日経文庫 2008  
新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ 中央教育審議会答申 (2012.8.24)  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_1](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1). 2019.8  
「域学連携」地域づくり活動とは 総務省  
[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichigyousei/c-gyousei/ikigakurenkei.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichigyousei/c-gyousei/ikigakurenkei.html) 2019.9  
山田浩久 地域連携活動の実践—大学から発信する地方創生 海青社 2019  
吉田健太郎 地域再生と文系産学連携—ソーシャル・キャピタル形成に向けた実態と検証 同友館 2014

# The self-evaluation and problems for Students through Community Activities

— Case Study on the Art Project —

MIYAJIMA Tatsuya

## Abstract

The current community activities in university education, it is important that students take the initiative and how to get involved.

By teaching positive students, regional universities can no longer find their value unless rooted in the community and living with the community.

I think that it is important for students to carry out activities in the community that contribute to the community without forgetting the basic mission of the educational institution as a university.

When I thought about the community activities for students with art and the design, I thought while including “How can we do local contribution?” and “How can we take the initiative by students activity” and as a practical education on design and art through regional exchange, the workshop was to be implemented as a specific activity.